

第5章 食育推進の目標

1 目標設定の考え方

本県の基本理念を達成し、重点課題に取り組むため、第4章に掲げる7つの基本的施策の成果を定量的に把握でき、かつ、食育推進運動を推進していくに相応しい主要な目標として次の18の目標を設定します。

第3次やまぐち食育推進計画においては、第2次やまぐち食育推進計画の成果を踏まえ、①目標を達成しておらず引き続き目指すべき目標、②目標は達成したが一層推進を図るべき目標、③新たに設定する必要がある目標を設定しています。

なお、目標値は平成32年度（2020年度）における目標値とし、本計画終了年度の平成33年度（2021年度）に向けて更なる数値の向上に努めることとします。

2 目標

(1) 食育に関心をもっている県民の割合

食育を県民運動として推進し、成果を上げるためには、県民一人一人が自ら実践を心がけることが必要なため、まずはより多くの県民に食育に関心をもってもらうことが欠かせません。このため、食育に関心をもっている県民の割合について、次のとおり目標を設定します。

目標	現状値（平成28年度）	目標値
関心度	76.1%	90%以上

<出典：県政世論調査>

(2) 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数

家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図ることは、食育の原点であり、共食を通じて食の楽しさを実感し、食や生活に関する基礎を習得する機会にもなります。このため、朝食又は夕食を家族と食べる「共食」の週あたりの回数について、次のとおり目標を設定します。

目標	現状値（平成28年度）	目標値
回数	9.3回/週	10回以上/週

<出典：県政世論調査>

(3) 地域等で共食したいと思う人が共食する割合

ひとり親世帯や高齢者の一人暮らしが増えるなど、家族の状況や生活の多様化により、家族での共食が困難な人も増えています。共食によりコミュニケーション等を図りたい人にとっては地域や所属するコミュニティ等を通じて共食する機会をもつことは重要です。このため、地域等で共食したいと思う県民が共食する割合について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 28 年度）	目標値
割 合	78.9%	90%以上

<出典：県政世論調査>

(4) 朝食を欠食している県民（成人）の割合

朝食を毎日食べることは基本的な生活習慣を身に付ける上で重要であり、特に若い世代は次世代に食育をつなぐ大切な担い手です。このため、20 歳代及び 30 歳代の男性について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 27 年度）	目標値
20 歳代男性	28.6%	15%以下
30 歳代男性	23.1%	15%以下

<出典：県民健康栄養調査>

(5) 毎日朝食を食べる児童生徒の割合

成長期にある子どもたちにとって、健全な食生活を営むことは健康な心身を育むためにも欠かせないものであるとともに、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼします。このため、毎日朝食を食べる児童生徒の割合について次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 27 年度）	目標値
小学生	90.8%	100%
中学生	90.0%	100%

<出典：山口県子ども元気調査>

(6) 学校給食における地場産物を使用する割合

学校給食に地場産物を使用することは、子どもたちが食材を通じて地域の自然や文化、産業等への理解を深めるとともに、生産や調理等に携わる人々や食べ物への感謝の念を育む上で重要であるほか、地産・地消の有効な手段です。このため、学校給食に地場産物を使用する割合について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 27 年度）	目標値
使用率	66.1%	70%以上

<出典：学校給食における地場産食材使用状況調査>

(7) 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている県民の割合

生涯にわたって心身の健康を確保しながら健全な食生活を実践するためには、県民一人一人が栄養バランスに配慮した食事を習慣的にとることが必要です。このため、県民にわかりやすく食事全体における栄養バランスを表している「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事」を栄養バランスに配慮した食事の目安とし、1日2回以上ほぼ毎日食べている県民の割合について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 28 年度）	目標値
割 合	43.4%	60%以上

<出典：県政世論調査>

(8) 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合

20歳代や30歳代の若い世代は、次世代に食育をつなぐ大切な担い手であるとともに、健全な食生活を実践することの必要性が高いことから、若い世代について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 28 年度）	目標値
割 合	36.0%	50%以上

<出典：県政世論調査>

(9) 生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する県民の割合

エネルギーや食塩の過剰摂取等の栄養の偏りなどに起因する肥満や生活習慣病の予防や改善には、日常から食生活を意識し実践することが重要です。このため、普段から適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する県民の割合について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 28 年度）	目標値
割 合	—	50%以上

<出典：県政世論調査>

(10) 成人肥満者（BMI 25.0 以上）の割合

生活習慣病予防の観点から、成人肥満者を減少させることが重要です。このため、男性は 20 歳以上、女性は肥満者の割合が高くなる 40 歳以上について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 27 年度）	目標値
男性（20 歳以上）	27.9%	15%以下
女性（40 歳以上）	19.1%	15%以下

<出典：公益財団法人山口県予防保健協会健康診査データ>

(11) ゆっくりよく噛んで食べるなどの食べ方に関心のある県民の割合

健やかで豊かな生活を過ごすには、口腔の健康や摂食・嚥下等の口腔機能の獲得・維持・向上と関連させた食育を推進することが重要です。このため、ゆっくりよく噛んで食べるなどの食べ方に関心のある県民の割合について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 28 年度）	目標値
関心度	59.9%	70%以上

<出典：県政世論調査>

(12) 農山漁村交流滞在人口

都市と農山漁村の交流の促進による成果として、農山漁村地域のツーリズム施設への宿泊者数を表す農山漁村交流滞在人口について、次のとおり目標を設定します。

目 標	基準値（平成 25 年）	目標値（※平成 31 年）
人口（年間）	8.6 万人	11 万人

<出典：農林水産省調査>

※ 農山漁村交流滞在人口（年間）は、「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」及び「山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略」における評価指標であり、県計画の整合性を図るため、基準値及び目標値は「山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価指標を用いています。

(13) 食育の推進に関わるボランティア数

食育を県民運動として推進し、県民一人一人の食生活において実践してもらうためには、食生活の改善やその他の食育の推進に関して県内各地で地域住民に密着した活動に携わるボランティアが果たす役割は重要です。このため、食育の推進に関わるボランティア数について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 27 年度）	目標値
ボランティア数	24,415 人	25,000 人以上

<出典：山口県食生活改善推進協議会資料及び県健康福祉部資料>

(14) 食の安心・安全に関する講習会等の受講者数

食の安心・安全について、普及・啓発を行い、県民に正しい知識の習得と理解を促進するため、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 27 年度）	目標値
受講者数	15,008 人	維持する

<出典：県環境生活部資料>

(15) 食品の検査件数（人口 10 万人あたり）

県内で製造・販売されている食品の安全性を確保していくため、食品衛生法に基づき、計画的に行う食品検査件数について、次のとおり目標値を設定します。

目 標	現状値（平成 27 年度）	目標値
検査件数	281 件	維持する

<出典：県環境生活部資料>

(16) 「やまぐち食べきり協力店」の店舗数

環境に配慮した食育や食品廃棄物の発生抑制・減量化の観点から、食品ロス削減の取組を推進することが重要です。このため、「やまぐち食べきり協力店」の店舗数について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 27 年度）	目標値
店舗数	184 店舗	300 店舗

<出典：山口県循環型社会形成推進基本計画（第3次計画）>

(17) 郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を継承し、地域や次世代（子どもや孫を含む）に対して伝えている県民の割合

地域の伝統的な行事や作法と結びついた食文化や地産地消へもつなげる家庭での料理等が、核家族化の進展や地域のつながりの希薄化、食の多様化により徐々に失われつつあります。このため、伝統食材をはじめとした地域の食材を生かした郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた食べ方・作法を受け継ぎ、伝えている県民の割合について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 28 年度）	目標値
割 合	79.2%	90%以上

<出典：県政世論調査>

(18) 郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を継承している若い世代の割合

20 歳代や 30 歳代の若い世代は、次世代に食文化を伝える重要な存在です。このため、若い世代において食べ方・作法を受け継いでいる県民の割合について、次のとおり目標を設定します。

目 標	現状値（平成 28 年度）	目標値
割 合	68.5%	80%以上

<出典：県政世論調査>

◆18 目標 21 指標◆

目 標		現状値	目標値	
1	食育に関心をもっている県民の割合	76.1%	90%以上	
2	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	9.3 回/週	10 回以上/週	
3	地域等で共食したいと思う人が共食する割合	78.9%	90%以上	
4	朝食を欠食している県民（成人）の割合	20 歳代男性	28.6%	15%以下
		30 歳代男性	23.1%	15%以下
5	毎日朝食を食べる児童生徒の割合	小学生	90.8%	100%
		中学生	90.0%	100%
6	学校給食における地場産物を使用する割合	66.1%	70%以上	
7	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている県民の割合	43.4%	60%以上	
8	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合	36%	50%以上	
9	生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する県民の割合	—	50%以上	
10	成人肥満者（BMI25.0 以上）の割合	男性（20 歳以上）	27.9%	15%以下
		女性（40 歳以上）	19.1%	15%以下
11	ゆっくりよく噛んで食べるなどの食べ方に関心のある県民の割合	59.9%	70%以上	
12	農山漁村交流滞在人口	8.6 万人	11 万人	
13	食育の推進に関わるボランティア数	24,415 人	25,000 人以上	
14	食の安心・安全に関する講習会等の受講者数	15,008 人	維持する	
15	食品の検査件数（人口 10 万人あたり）	281 件	維持する	
16	「やまぐち食べきり協力店」の店舗数	184 店舗	300 店舗	
17	郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を継承し、地域や次世代（子どもや孫を含む）に対して伝えている県民の割合	79.2%	90%以上	
18	郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を継承している若い世代の割合	68.5%	80%以上	

※現状値は平成 25 年度～平成 28 年度